

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201768		
法人名	社会福祉法人 札幌蒼生会		
事業所名	グループホーム栄町		
所在地	札幌市東区北46条東16丁目1番18号		
自己評価作成日	平成26年	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action=kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201768](http://index.php?action=kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201768)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設する小規模多機能ホームの、リフト浴・大浴場を使用出来る。
内部研修や外部研修が実施され知識の向上を行っている。
毎月の出前や週1回のおやつを外注し、食事を楽しめる工夫をしている。
入居者一人一人に合わせた生活の支援を大切にしている。
看取り介護を実施し医療や他機関との連携を図っている。
職員それぞれの介護観を大切にしながら意見交換ができ入居者本位のサービスができるよう努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成27年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は地下鉄駅からそう離れていない住宅地に立地していますが、住居のほとんどがマンション群で構成されており、都市型の環境下にあると思われます。母体は特別養護老人ホームやデイサービス、グループホーム等を運営しており、高齢者介護には実績のある法人といえます。当事業所は4階建ての2階と3階を使用しており、1階にはデイサービス、4階は小規模多機能ホームがそれぞれ使用しており、相互の協体制度も強く、お風呂の相互活用、合同でのお祭り実施等お互いの特色を活かした形で連携し、サービスの向上に繋がっています。個人別に作られたお便りには、一月の生活の様子がわかるように、何枚もの写真と担当介護員が日々の出来事を綴った内容となっており、家族が安心していただける大事な部分を詳細に報告しています。また、丁寧なケアを実践しており、入浴支援をとっても、それぞれの個別状況に応じて、また本人の希望を聞きながら一般入浴からリフト使用の機械浴と使い分けており、身体に負担の少ない様、楽しい入浴になる様、工夫された支援に取り組んでいます。要介護度の平均が介護4を超える中で、お便りの写真が素敵な笑顔になる様に丁寧なケアを指向し、また本人一人ひとりの個性に着目したケア実践に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、玄関や各階の事務所に掲示し、実践に繋げている。また全体会議時説明し周知している。	理念は母体法人の運営指針に沿って、事業所独自に作り、各玄関等に掲示しながら、ケアの実践に活かせるように、取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月広報誌を発行している。新しく職員が入社した際掲載し紹介している。町内会のゴミ拾いや花壇作りの参加、小中学校との交流やボランティアの受け入れも行っている。	町内会に加入し、町内の行事である、ごみ拾いや花壇の世話に積極的に参加しています。また小中学校の社会学習の場としても受け入れを続けており、地域の一員として活動しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践内容を広報誌に載せたり、運営推進会議時認知症の人の理解や支援方法について説明し理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員や家族も参加し、意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	町内の代表や家族、行政の構成で運営推進会議を定期開催しています。同一地区にある他の介護施設からも参加を得ながら、地域全体でサービスの向上となるように努めています。	運営推進会議を地域全体で取り組んでいます。開催後の議事録について、委員のみならず全ての家族まで送付し、推進会議の論議を公開することで、開かれた事業所となるように期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や市の担当者と運営推進会議、又は電話等にて情報交換を行っている。	ホームの空き情報の調整や介護情報の交換等に、また困難事例等で相談やアドバイスを受けるなど、市の担当窓口とは信頼ある関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階玄関は夜間のみ施錠しているものの中には開錠している。また、内外研修にて理解を深め、実践に繋げている。	拘束の無縁な介護の実践に取り組み、拘束事例である11項目を事務所内に張り出し、いつでも検証できる体制で、実践に繋がるように毎日拘束も抑制もないケアに臨んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を設けたり、日々ケアについて、職員同士で話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者会議や外部研修にて、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、会議にて改善内容を話し合い、運営に反映させている。	毎年の年度末にサービス満足度調査を実施し、サービスの点検、振り返りを実施しています。また日頃から家族の来訪時には、要望や意見、苦情を話してもらえよう臨んでいます。また個人別にお便りを発送し生活の様子を詳細に伝えており、家族は大変楽しみにされています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス、面談にて意見交換を行っている。	職員には毎年、個人目標を設定してもらい、年度末にその成果を管理者と面談で確認しています。その過程で色々な意見や提案を受け、サービスに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し、達成できるよう取り組んでいる。また環境が整備されるよう日々職員と話し合いやりがいのある環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修に参加している。研修委員会を発足し、2ヶ月に1回研修を行っている。研修内容についても職員の要望を聞き求めに応じて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や管理者会議にて、交流・意見交換を行っている。またその得た情報・意見を職員に知らせ周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談にて情報収集し、その人らしく安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談にて、不安や要望を傾聴し、小さなことでも話していただけるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談にて情報収集し、又、入居後1ヶ月でモニタリングを行い、ケアプランの見直しを行い、必要なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望や思いを汲み取れるようコミュニケーションを取り関係作りに努めている。できることできないことを見極め支えあいながら生活するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加を促したり、毎月の手紙や電話、面会時に日常の様子報告を行い、情報の共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出掛けたり、遠方の親戚に会いに行く等、支援している。来訪された片とゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	昔馴染みのお店での買い物や、床屋の利用、お墓参り等の出身地域への外出も大切な行事と考え、家族の協力を得ながら、以前からの関係が継続できるように支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々性格、相性を把握し、座席の配慮等している。又、円滑にコミュニケーションが取れるよう職員が仲介している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居時必要な情報の提供を行ったり死亡時ご家族への配慮行っている。また何か困ったことなどあればいつでも連絡いただくようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けやコミュニケーションを大切にしながら本人の希望がかなえられるよう努めている。ご本人の意向を念頭に置きアセスメントを行っている。	日々の生活を支援していく中から、本人の意向や嫌なことを把握し、職員全員で共有しながら、希望に沿えるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族や本人より情報収集行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や生活記録により、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎、又は状態変化時のモニタリング、6ヶ月毎のケアプラン見直しを行い、都度カンファレンスを行っている。特変時は必要に応じ見直しを行っている。	入所当初は1ヶ月で、また生活に馴染んできた場合は、6ヶ月毎に介護計画を見直しています。介護計画目標についての進捗状況を毎日把握し、今後の計画作成に役立つようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践評価を毎日行い、職員間で話し合いを行ったり主治医に相談を行い、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に対応し、よりよい生活が送れる様情報を集め取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会活動やボランティアの受け入れをおこなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、週1回の健康チェックを行い、又24時間オンコール体制を取っている。	かかりつけ医は以前のままが原則ですが、遠方等の理由で協力医に変わる場合もあり、家族の希望に沿った方法で、安心な医療の支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康チェック、24時間オンコール体制にて、日常の様子を報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、家族・病院と情報交換を行っている。あらかじめご家族から希望の病院をお聞きし緊急時対応できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別に家族と話し合い、取り組んでいる。重度化した場合の対応指針を作成し、意思確認書の記入を入居時よりご本人・ご家族に説明しお願いしている。	重度化した場合の指針を書面で作成し、契約時に説明し、同意を得ています。また希望にそったケアを実践できるように、研修を重ねながら重度化したケアに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、迅速に対応出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。非常災害マニュアルを作成し迅速に対応できるよう努めている。	避難訓練は同一建物の4事業所が合同で年に2回行っています。また地域の他福祉施設とは応援協定をお互いに結んで、地域全体で不意な災害に備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や会議にて、理解を深め、常に意識するよう努めている。個々に合わせた対応を心懸けている。	一人ひとりの人格や誇りに配慮し、名前の呼び方や声の掛け方にも馴れ馴れしさを排除し、人を尊ぶ支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が引き出せるような声掛けや対応を行い自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、本人のペースを尊重し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を活用したりご本人に好みを聞きその人らしく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態を提供したり、能力に合わせて準備や片付け等も行っていただいている。行事の際は出張寿司等楽しめる食事を提供している。	その人の状態に合わせて食事形態に配慮し、また外食や出前での注文食を取り混ぜてたり、またおやつも手作りに取り組んだりと食事を楽しめる工夫に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アンケートを実施し、会議にて改善内容を話し合い、運営に反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと自力でできる方は声掛けを行い、就寝時は義歯洗浄剤使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、時間での誘導の他に排泄のサインを見逃さない様に職員で情報を共有し、的確な誘導で自立に向けた取り組みに努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品の提供や体操やマッサージを行い、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設の設備上、時間帯は決められているが、入浴日は決まっておらず、個浴・大浴場・リフト浴と本人の状態や希望に合わせて入っていただいている。	同一建物の4事業所がそれぞれ浴室を使っているため、利用者の希望や身体の状態により、リフト浴、個浴、大型浴と選びながらの入浴が可能となっており、個人に沿った入浴支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、又、体調や状態に合わせて休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬ファイルにて把握できるようにし、理解に努めている。また服薬内容について必要か否かを医療と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、生活の中での役割に繋げている。又、好きなTVの提供や、レクリエーション等で気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、外出等を行ったり、故郷や馴染みの場所への外出支援等も行っている。	春や秋の季節感のあるドライブの他に、近所の庭の花を愛でる散歩や近くの公園での昼食会など、時間があれば気楽な散歩が楽しめるように、日常的な外出の支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理出来る利用者がいない為、事務所にて管理行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置いたり、季節に応じた飾りつけや温度の調整を行っている。また温度調節はなるべくエアコンを使わず自然換気を心懸けている。	既存の建物を改築したため、変則的な部分もあり、より家庭的な雰囲気のある居住空間になっています。装飾も季節感にあふれており、温度や湿度にも自然喚起を心がけた配慮がなされ、落ち着いた雰囲気の共有空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子をリビングや廊下に配置している。中庭が見渡せる場所に椅子を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使用してきた馴染みの物や写真等で居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には、小物類を中心に使い慣れた家財が置かれており、居心地のいい自分の部屋になる工夫が随所に見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレとわかるよう表示したり段差は赤いテープをつけわかりやすいように表示している。		